

「環境活動のまとめ」発行にあたって

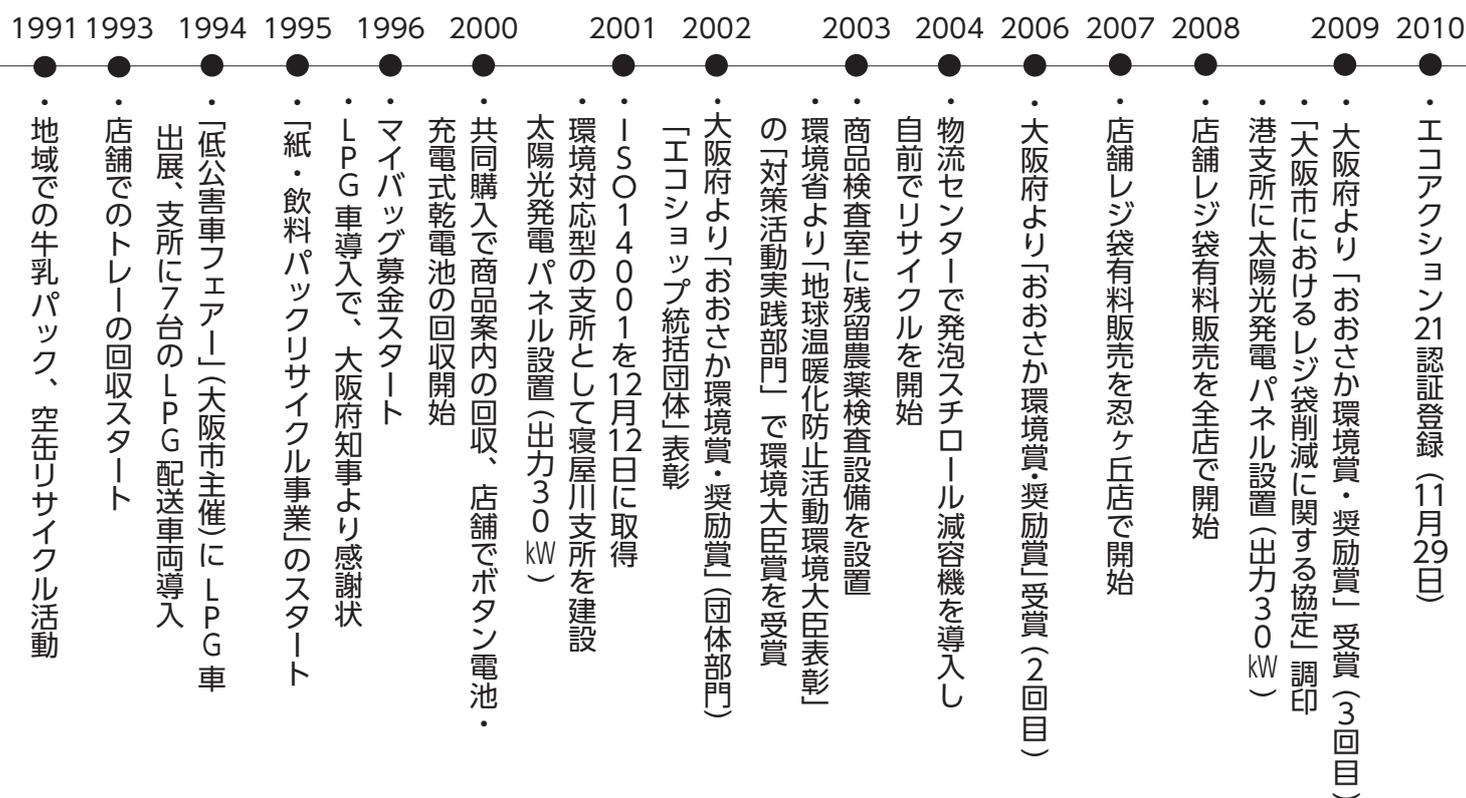
2019年は気候変動、地球温暖化に注目が集まった年でした。中でも、2018年8月、グレタ・トゥーンベリさんが始めた「未来のための金曜日」と呼ばれる学校ストライキは世界的な動きになりました。そんな中、2019年12月にスペインのマドリードで国連の会議「国連気候変動枠組条約第25回締結国会議（COP25）」が開催されました。会期は2日延長されましたが、残念ながら脱炭素社会へ向けての明確なメッセージが出されたとは言えない結果でした。しかし、会議の結果に左右されることなく、温室効果ガスの排出量は削減しなくてはなりません。全世界の人とともに、事実に向き合い必要な対策をできることから実施していきましょう。

COP25中に発表されたレポートで日本は、2018年、気候変動リスクにさらされ、大きな被害をうけた国のランキングで第1位に選出されました。

平成30年7月豪雨、歴代全国1位の最高気温を更新した記録的猛暑、非常に強い勢力のまま上陸した台風第21号や台風第24号など、自然災害により多くの被害が出ました。2019年も台風第15号、第19号や九州豪雨が激甚災害に指定されています。

日本の私たちは、私たちの生命や暮らしを守るために、これ以上の温暖化を食い止める行動を大胆に起こすことを求められています。

これまでの主なあゆみ



「子どもたち・未来のために、美しい地球のために」

子どもたちに自然環境のすばらしさを伝えていくことは、大人としての課題です。未来を生きる子どもたちに美しい地球を渡せるよう、生協として地球温暖化防止の社会的責任を積極的に果たし、事業と活動をすすめていきましょう。

2020年5月

環境マネジメント推進委員会



2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019

- 2011
 - ・商品検査室に放射能検査機器を設置
- 2012
 - ・「大阪市におけるレジ袋削減に関する協定」店頭イベントを開催
 - ・ライトダウンキャンペーンに参加
 - ・エコアクション21更新審査「適合」
- 2013
 - ・NPO法人「リアルにブルーアースおおさか」により
 - ・なおお店に太陽光発電パネル設置(出力20kW)
 - ・北枚方支所に太陽光発電パネル設置(出力50kW)
 - ・忍ヶ丘店食品リサイクル(肥料化)をスタート
- 2014
 - ・寝屋川支所の太陽光発電パネル更新(出力30kWから50kWへ)
 - ・店舗で透明トレーの回収スタート
 - ・エコアクション21更新審査「適合」
- 2015
 - ・おおさか協同物流センターに太陽光発電パネル設置(出力655kW)
 - ・大阪市内3店舗で食品リサイクル(飼料化)をスタート
- 2016
 - ・なになエコ会議…二酸化炭素削減コンペ
 - ・ガス使用量削減活動でチャレンジ賞受賞
 - ・エコアクション21更新審査「適合」
- 2017
 - ・食品リサイクル(飼料化) 7店舗に拡大
- 2018
 - ・店舗 畜産品の脂リサイクルスタート
 - ・環境マネジメントシステム・
 - ・エコアクション21更新審査「適合」
- 2019
 - ・都島福祉センター開設 10項目の環境対応
 - ・紀ノ川農協耕作放棄地再生活動を開始
 - ・環境マネジメントシステム・
 - ・エコアクション21中間審査「適合」

ライトダウン



ゲルマニウム半導体検出器

環境マネジメントシステムを活用して 事業をすすめています



事業活動にともなう環境負荷を最小限にとどめることに継続的にとりくむために、環境省が定めた環境マネジメントシステム「エコアクション21」を活用しています。



毎年、資格を持った外部審査人の審査を受けます。2019年度は中間審査年で、9月に3日間、各事業所の審査を受けました。環境へのとりくみが評価され「**適合**」の結果でした。

環境方針

基本理念

おおさかパルコープは、持続可能な循環型社会の実現を目指し、環境問題を重要な課題と位置付け、組合員とともに環境保全活動に積極的に取り組みます。

基本方針

おおさかパルコープは、組合員を対象とした食料品など生活関連の商品供給事業及び共済、福祉事業や旅行、チケット、暮らし関連などのサービス事業を行っています。こうした事業活動から発生する環境に大きな影響を及ぼす項目について、技術的かつ経済的に可能な範囲で環境目標、環境活動計画を定めて取り組み、環境負荷の軽減と汚染の予防、生物多様性の保全への配慮、環境マネジメントシステムの継続的な改善を行います。

1. 環境に配慮した商品やサービスの取扱いと普及をすすめます。
2. 地球温暖化防止のために、CO₂ 排出量削減に取り組みます。
 - ・積極的に省エネルギー機器導入に取り組みます。
 - ・電気、ガスの使用量削減に取り組みます。
 - ・配送効率や運転技術の向上、エコドライブの推進で車両燃料の削減に取り組みます。
3. 廃棄物の削減、リサイクルに取り組みます。
 - ・紙などの資源を効率的に使用し、使用量削減とリサイクルに取り組みます。
 - ・店舗では食品廃棄ロス基準を守り廃棄物の再生利用等に取り組みます。
 - ・組合員とともに、容器包装、商品案内チラシなどの回収リサイクルや、買い物袋持参に取り組みます。
4. 資源の有効活用、節水に組みむとともに、グリーン購入に努めます。
5. 商品検査室で検査に使用する化学物質の使用量確認を行い、適正管理を推進します。
6. 環境関連の法令、条例及び受け入れを決めたその他の要求事項を遵守します。
7. 組合員による環境活動を積極的に支援し、持続的発展を可能とする循環型社会構築に向けた社会的活動に広範に取り組みます。
8. 以上の活動を進めるために、職員に対する環境教育と環境コミュニケーションを積極的にすすめます。

この環境方針はおおさかパルコープの内外に公開するとともに、環境活動の取り組みの状況について定期的に公表します。

2001年7月21日制定
2020年3月10日改定
生活協同組合おおさかパルコープ

理事長 所 清司

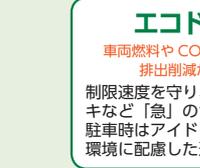


環境省
エコアクション21
認証番号 0006252

2019年度 主な環境目標の実績と評価



事業所や部署ごとに、今年は30項目の目標を持ちました。24項目は目標を達成したり実施することができましたが、6項目は目標を達成することはできませんでした。毎年目標の見直しを行いながらとりくみを継続します。

主な環境目標		活動と評価	
省エネルギー活動 CO ₂ 排出量削減のために	電気使用量  	前年対比 102.2%	電気は新支所2カ所とサービス付き高齢者住宅の開設など、増えることをみこして省エネルギー活動を進めました。増加していますが、事業所の全面積の増加率(104%)を下回ることができました。
	ガス使用量  GAS	前年対比 99.8%	空調に使う京橋ビルの使用量が減り全体では少し削減されています。次年度へ向けて、今年の状態をもとに、日常管理する目標を持って省エネルギー活動を進めます。
	水道使用量 	前年対比 109.4%	配送担当者の熱中症対策で支所にミスト発生装置を付けたので水道の使用量は増加しました。次年度はミスト発生時間管理など細かな管理をしながら削減を進めます。
食品ロス削減のとりくみ 1. 調理に使った食用油 2. 魚のアラ 3. 畜産品の脂 4. 野菜くずや消費・賞味期限の切れた商品 		約333トン	食品ロス削減のとりくみをすすめています。2020年4月からは星ヶ丘店も野菜くずなどの食品リサイクルを開始しました。
車両燃料使用量の削減 		燃料使用量 前年対比 103% 車両台数 前年対比 107%	配送業務を委託していたものを、組合員さんへのより丁寧な対応のために直接雇用の従業員へ戻しています。車両保有台数は107%と増えていますが、車両燃料使用量前年比は103%と削減できています。
エコドライブの推進 エコドライブセルフチェックを実施 		エコドライブ 車両燃料やCO ₂ 等の排気ガスの排出削減ができます。 制限速度を守り、急発進、急ブレーキなど「急」のつく運転はしない。駐車時はアイドリングストップなど環境に配慮した運転をする。等	安全運転 年間で3回、自らの運転状況を見直し、安全運転に努めるために、セルフチェックを実施しています。車両燃料使用量削減のために、「シートベルトを締めてからエンジンスタート」も合言葉です。
環境に配慮した取り扱い 		56品目の認証と138件のお届け前検査	ハート栽培農産の実態把握を産地点検・農薬検査などで実施しています。環境にやさしい農業生産の推進は産地の環境保全にもつながるとりくみです。

地球温暖化防止のためCO₂排出量削減の とりくみをすすめています

2019年度CO₂排出量は11,897トンになりました。昨年対比で100.5%となり、原単位*では20.1トンとなりました。

*原単位：CO₂排出量を供給金額で割り算して、CO₂排出量を算出し、削減にとりくむ方式です。

毎年、設備改善と運用管理の強化で排出量削減にとりくんでいます。多くのCO₂を排出する事業者の社会的責任として、これからも削減のとりくみを積極的にすすめていきます。

全国生協のCO₂排出総量削減目標

2020年に
2005年度比で **15%削減**

日本生活協同組合連合会ではCO₂排出量の総量削減をすすめるために、全国の生協と協力して「温室効果ガス総量削減計画」をすすめています。2020年度に、生協全体のCO₂排出量を「2005年度対比で15%削減」を目標としています。

パルコープでもデータ提供し、総量削減のとりくみをすすめています。

CO₂排出量の抑制 経年の推移と評価

電気使用CO₂排出係数：0.423kg-CO₂/kWh
(日本生協連、全国統一CO₂排出係数)



今年度
パルコープの
CO₂排出総量
11,897t

全事業所で省エネにとりくんでいます

共同購入・福祉事業所でのとりくみ

省エネルギー設備の導入をすすめました

2019年4月開所：パル都島福祉センター
(サービス付高齢者住宅含む)

大阪市都島区御幸町にサービス付き高齢者住宅を含む都島福祉センターを開設しました。

入居者の皆さんの住みやすさと安全性に配慮しながら、設備全体ではペアガラス設置による断熱効果の向上、場所ごとの使用状況により照明管理ができるようにするなど、10項目の環境対応を行いました。



今年も事業所の空調などの室外機に自前の遮光工事を行いました



遮光設備の
設置で
電力使用量
10%削減
効果

省エネ診断を受け提案を
頂いた事を契機に、毎年、直射日光が長時間
当たる店舗、配送センターの室外機に遮
光の設備を設置しています。今年度は7ヶ
所に設置しました。電力使用量で10%の
削減効果があるとされています。

店舗でのとりくみ

食品リサイクルのとりくみ

店舗で実施している食品リサイクル^{*}は、昨年4月から3月までで約150トンが長岡京市のリサイクル工場に運ばれて飼料になりました。

また、畜産品の脂は畜産専門の搬入先（徳島県）でリサイクルするとりくみを続けています。3月までに約32トンが飼料になりました。

※食品リサイクル：お店で出る賞味期限が切れた商品や野菜くずなどを、飼料に加工し再利用するとりくみです。



店では細かく分けて出す作業をしています。

食品のリサイクル
約**182**
トン



完成した飼料原料

太陽光発電設備について

再生可能エネルギーはCO₂の排出量を大幅に削減し、日本のエネルギー自給率を上げることにつながります。現在、パルコープでは(株)おおさか協同物流センター(655kW)を含めて785kWの太陽光発電が稼動しています。年間発電量は合計844,796kWhになり、CO₂の排出量で297トンの削減につながっています。

(株)おおさか協同物流センター



太陽光発電設備

設備
太陽光
発電

北枚方支所	50kW
寝屋川支所	50kW
港支所	30kW
(物流センター)	655kW



(電気使用 CO₂ 排出係数：0.352kg-CO₂/kWh)



おおさか協同物流センターでの環境へのとりくみ

■ 2015年までにLED照明 2,840ヶ所導入 年間約221,000kWhの節電		
2014年3月	常温エリアLED化 1,790本	年間約120,000kWhの節電
2015年2月	フードバンク関西への食品提供開始 (年間約10tを提供)	
	要冷エリアLED化 770本	年間約53,000kWhの節電
3月	生ごみ処理機シンクピア導入	年間約110tを処理
	6月 太陽光発電開始 654.5kW	年間約650,000kWhの発電
	11月 事務棟照明LED化 280ヶ所	年間約48,000kWhの節電
2017年4月	シッパー洗浄機導入 (衛生とシッパーの寿命延長。月約11万個洗浄)	
	9月 天井設置大型ファン (コース別エリア作業者の暑さ対策で導入)	
2018年6月	非常灯LED化 (13ヶ所19本)	



生産から消費まで、環境に配慮した商品の取り扱いをすすめています

いなば農業協同組合のとりくみ 『環境に配慮した循環型農業を実践しています』

いなば農業協同組合 上川 進さんからのご紹介をします。

私たちの産地は、富山県の鶏卵シェアの約80%を占めています。

その利点を活かし、農業と養鶏の連携により地域の活性化に繋がっています。

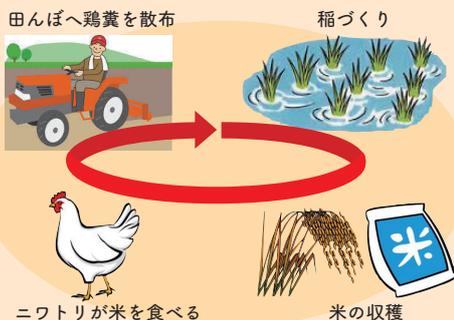
農業では、鶏糞をたい肥として散布すれば化学肥料の減肥になり、養鶏では、ニワトリが米を食べ、産んだ卵がブランド商品として販売されています。

化学肥料の減肥のほかに、農薬に入っている成分数を規制した減農薬栽培も行っています。

このとりくみは、農家の皆が20年以上継続し励んでいます。

産地の“安全・安心な環境にやさしい農産物”の基礎となっています。

平成6年から続くおおさかパルコープさんとの“生産者と消費者の顔の見える交流”を大切に、これからも頑張っていきます。



生産者、農協職員のみなさん

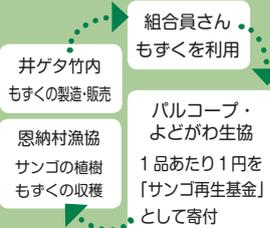
もずくを食べてサンゴが育つ海づくり サンゴ再生もずく基金

サンゴ



今年度植樹
約39本

サンゴ再生もずく基金



～サンゴ再生もずく基金～

「恩納村産もずく」

産地、メーカー、生協、組合員が手をつなぎ、もずくの育つ里海を守るとりくみです。

2019年は、糸もずくが過去にない生育不良で、6月からココロポ恩納村産味付糸もずくのお届けを休止しましたので39本と昨年からは半減以下(昨年94本)の結果でした。
2013年度からの累計では552本となりました。
産地では試験的に高い海水温でも生育する株を選択して種付けするなどの工夫をされて、2020年分は確保されています。



耕作放棄地再生活動 in 紀ノ川市北長田

2019年1月からとりくんでいる耕作放棄地再生活動は、環境内部監査員のメンバーを中心に、紀ノ川市北長田地区にある耕作放棄地(柿や桃の生産地でした)でレモンを栽培することを目的に、1年間作業を続けてきました。

放置されていた柿、桃の木の撤去、石や岩などを取り除き、草刈り、肥料入れ、時には古座川で作られている特産品のゆずを活用した肥料を現地から持ち込み園地に入れるなどの活動を続けています。

2019年4月に定植した苗からは、数十個のレモンが収穫されましたが、本格的な収穫は2020年以降になります。今後も継続して作業を進めます。



リデュース
Reduce

リユース
Reuse

リサイクル
Recycle

3Rで資源の有効活用を すすめています



海洋の汚染から問題となった「海洋プラスチック問題」は、2020年7月からレジ袋が有料化されることにつながりました。パルコープでは組合員さんにとりくみによるマイバッグ募金をスタートに、忍ヶ丘店で2007年、2008年から全店で「レジ袋の有料化」による買物袋持参運動にとりくんできました。組合員さんの理解もあり来店者の90%ほどの方が買い物袋を持参されています。今後も包装資材の代替えや不必要なものの廃止、分別とリサイクル、消費者の意識と社会システムの整備に向けてとりくみを続けます。

組合員さんには回収、再資源化しやすいよう、洗う・開く・乾かす・つぶす・重ねるなど、それぞれの回収方法を守り、リサイクルにご協力を引き続きお願いします。

- 事業活動に伴って排出される容器包装のリサイクルにとりくんでいます。捨てればゴミに、分別して出せば資源です。
- 共同購入で使われている商品案内（カタログ）は、古紙原料としてリサイクルされています。組合員さんのご協力で、2019年度は5,127トンの回収、再資源化につながりました。回収率は現在、約61%です。100%を目指して、配送時の回収を広めましょう！



回収された商品案内

リサイクル品19年度回収量		回収量
商品案内	回収率：61%	5,127t
共同購入	紙飲料パック	78,580kg
	卵パック	37,200kg
	仕分け袋	43,490kg
店 舗	紙飲料パック	18,950kg
	卵パック	11,430kg
	ペットボトル	26,060kg
	ビン	52,660kg
	缶	7,490kg
	食品トレー	44,530kg
	乾電池類	2,050kg
	蛍光灯管(大阪市内)	3,160本
共同購入+店舗	発泡スチロール	26,060kg
	ダンボール	883t

組合員さんには、店舗でのマイバッグ持参にとりくんで頂いています。マイバッグの持参率は89.4%となりました。レジ袋は約607万枚削減されていることとなります。毎年多くの新しい組合員さんを迎えるなか、マイバッグ持参運動を地道に続けていることが高い持参率の維持につながっています。

- お店では「魚のアラ」をリサイクルしています。(全店舗)
岸和田市にある小島養殖漁業生産組合で魚粉と魚油を製造。飼料などに使われています。



- お店で調理に使ったあとの廃油は、今年も約22,000リットル(200リットルドラム缶110本)のバイオディーゼル燃料にリサイクルされています(全店舗)。



1日エコライフ

組合員のみなさんひとりひとりの、少しずつの心掛けが大切です。

エアコンの温度管理、買物袋持参、ゴミの分別やリサイクル、車は使わず徒歩や自転車での外出。毎日の暮らしの中で環境を守るとりくみにつながることはたくさんあります。組合員さんには毎年、OCRアンケートなどを通じて、身近にできることにチャレンジして頂いています。

今回参加人数
3,170名
(組合員+職員)
CO2削減量
約**1,397kg**



1日エコチャレンジでいただいた感想・メッセージをご紹介します

生活の中で、少し意識するだけでもエコにつながる事がたくさんある事に気がきました。

地球温暖化が確実に進んでいるのは最近の暑さで実感しています。少しの心がけで二酸化炭素排出量を削減できるのであれば、これからも継続したいと思います。

エコライフをするなら暖房をしないこと。ひざかけか毛布で代用。便座はカバーをしてスイッチを切る。

エコは楽しく実行することが良いと思います。

地球のためにエコ活動。これからも頑張ります。

エアコン+扇風機は空気の循環が良くて快適でした。

“エコライフ”といえば大層に聞こえるが、ちょっとした事なんだと感じました。

冷房を28℃に設定して、1日過ごしましたが、暑くも寒くもなくちょうど良い感じでした。体にはやさしいかもしれません。

冷蔵庫の設定温度を「強」から「中」にしても問題なかったので、続けようと思います。

気を付けなくてもあたりまえになってきているので、このまま続けたい。

エアコン室外機の前にはスダレをかけました。

環境にもお財布にも優しく一石二鳥。積極的にとりくみたいと思います。



地域や行政とともに

2019年6月22日、7月7日ライトダウンキャンペーン

今年も全店舗で「ライトダウンキャンペーン」に参加しました。

枚方では地球温暖化対策協議会からの要請を受け「打ち水大作戦」などにもとりくみました。

※ 2019年は予定されていたとりくみが、台風により中止になったり、2020年に予定されていたものは、新型コロナウイルスへの対応で中止されたものもありました。

6月22日
忍ヶ丘店
ライトダウン
キャンペーン



店内照明を
落としています



8月7日
星ヶ丘店
打ち水大作戦

組合員さんから、お互い
熱中症には用心しましょうね！
とお言葉も頂きました



7月7日
西くずは店
ライトダウン
キャンペーン



定期的な放送による説明と
呼びかけを閉店までしました



身近な水環境の全国一斉調査

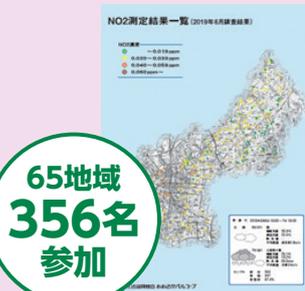
大阪市内では「身近な水環境一斉調査」に13地域14ヶ所58名が参加されました。今年で16年目になります。

13地域
58名
参加



NO₂ 自主測定

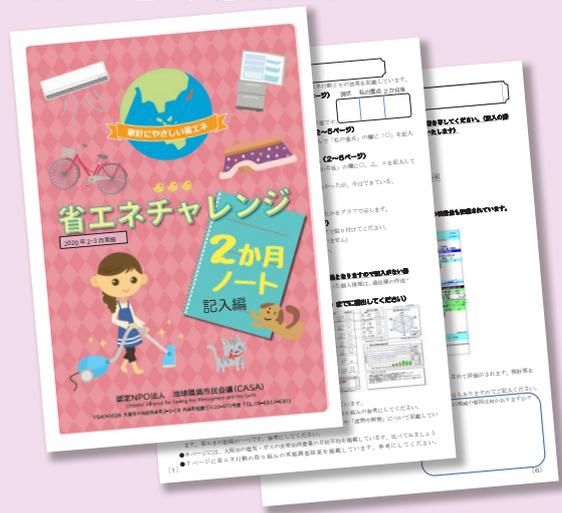
大気汚染への関心を高めるために、毎年とりくんでいるNO₂自主測定には65地域356名が参加されました。



65地域
356名
参加

省エネチャレンジノート

地球温暖化防止に身近なところからとりくむ特定非営利活動法人地球環境市民会議(CASA)発行の「省エネチャレンジノート」には、2か月版28名、1週間版19名、子ども版3名が参加されました。



省エネチャレンジノート 2か月版 (表紙・内面)

OSAKA PALCOOP ECO REPORT 2020

リアルに協同発電しよ・ながお
NPO法人 リアルにブルーアースおおさか

みんなの力で
作りしました

一般家庭の年間消費電力の
約5軒分を発電しています

太陽発電所
只今の発電電力
152 kW

のべ270名の協力による
市民共同発電所です

2014年1月29日 売電スタート

ながお店屋根 太陽光発電設備

ワークショップ「ソーラーキーホルダーをデコってみよう」

パルコプの組合員さんの中から「自分たちで協同発電所を作ろう」と立ち上がったNPO法人「リアルにブルーアースおおさか」、2014年1月にながお店の屋根に設置された20kWの太陽光発電設備は1年間の発電量は21,896kWhとなり、これは一般家庭が1年間に使用されると言われている電力量（約3,600kWh）で換算すると6軒分に相当します。火力発電で発電した場合と比べて14,604kgのCO₂排出を削減出来ました。



おおさかパルコプ 概要

2020年3月20日現在

名称 生活協同組合おおさかパルコプ
設立 1991年3月2日
職員数 フル職員899人、属託職員66人、パート職員1,619人
供給高 590億円
組合員数 44.1万人

共同購入支所数 13カ所
店舗数 9店舗
組合員会館 4カ所
組合員集會室 13カ所



生活協同組合 おおさかパルコプ

大阪市都島区東野田町 1-5-26
<http://www.palcoop.or.jp/>

2020年5月発行